

代表質問

鳥取県議会自由民主党



県政運営の基本姿勢

問 新政権となり局面に合わせたギアチェンジを図っていく時だ。県民の納得と共感を得ながらどのような県政運営にあたるのか。

答 コロナを克服することがこの16か月予算のテーマである。新型コロナウイルス対策費や地方創生臨時交付金2兆円を要望した。事業者対策や観光対策に取り組み、デジタル田園都市国家構想(※)を進める。人材育成にも取り組みたい。

新型コロナウイルス感染症への対策

問 県民の命を守るための医療提供の再構築は。

答 検査や医療提供の体制をしっかりとしておくことに尽きる。鳥取方式の成功体験に基づき、対

応を徹底する。ベッドを8床増の345床確保できた。国のワクチン接種の在り方に臨機応変に対応する。

問 持続的に企業が事業継続するための取組は。

答 危機突破応援補助金を皮切りに経営の多角化や事業転換の助成制度などを随時打ち出した。非接触型やデジタル化に対応して、企業を支援し、今後も成長していきける土台づくりを図る。

問 本県は第5波の難局を一致団結して乗り越えた。今後も県職員のワーク・ライフ・バランス推進を図り、機動的で柔軟な組織運営に取り組みべきではないか。

答 プロジェクトチーム方式で対策を展開してきた。経験者には即戦力で応援に入ってもらい、専門性を高めるための研修を行う。また専門職員の前倒し採用を考えている。小さい組織であるがゆえに大きな人口規模の自治体ではない総力戦で向かっていく体制づくりが重要だ。

鳥取版みどりの食料システム

問 昨年5月、農水省はみどりの食料システム戦略を策定。県として国の戦略にどのように対応されるのか。また、二十世紀梨や米についても農家の負担を軽減させる安定化策が必要ではないか。

答 1千億円達成プランを軸に、意欲的に生産振興を図っている。有機JASの加工品で、本県が全国で唯一その認定者になった。また、二十世紀梨は霜対策助成などの振興策を強化。米は、主食用米から飼料用米等へのシフトを図り、他の作物への転作支援策を考えている。国の詳細を見ながら臨機応変に対応し要望していく。

米子道の4車線化と延伸

問 4車線化と延伸については、一歩でも議論を進めていただきたい。今後の見通しや県の取組状況は。

答 米子〜境港延伸については、協議会がアンケート調査を実施し今後国に要望する。着実に進んできていると手応えを感じている。

高齢者の運転免許対策

問 車の運転が生活に欠かせない県民に、安心・安全が担保される社会とするには。

答 (警察本部長) 県警察は、訪問活動による高齢者への交通安全指導や講習を実施。免許センターに医療系専門職員を相談員として配置し、認知症などの早期発見と自主返納の説明を行っている。令和4年5月から75歳以上で違反歴がある運転者は、免許更新時の運転技能検査、および安全運転サポーター車などに限定して申請する制度が設けられる。

子育て王国とっりの充実

問 テレワークなど多様な働き方が現実化してきた今こそ、だれもが子育てと仕事を両立できる環境が必要ではないか。

答 昨年6月に育児・介護休業法が改正され、令和4年4月から新制度がスタートする。育児休業を取得した企業への助成金の制度がある。また、男性の看護休暇制度を企業でも設けるための促進措置を新年度予算で検討したい。

北朝鮮問題

問 拉致問題とミサイル発射について、強い姿勢で対応してほしい。

答 拉致問題は国連も認める人権侵害だ。政府は国際社会と協調して取り組むことが必要。またミサイルについては、全国知事会長として北朝鮮に抗議をした。

(※) デジタル田園都市国家構想…新政権が掲げる構想で、デジタル化を進めて地方と都市の格差を解消し地域活性化を目指すもの。